

拝啓 今年も早や6月下旬、梅雨の時期で雨がよく降りますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。いつもエンカウンターお読みいただきありがとうございます。6月は、黄色な花の美女柳がきれいに咲きました。また、いつも朝散歩するコースにねむの大木がありますが、ねむの花が咲き始めました。木の花は、最近、ミズキと夏椿の木を覚えました。

今月は、『ミス・ローラ・J・モーク その信仰と生涯』(2)をお送りしますが、モーク先生は、太平洋戦争中もアメリカに帰国せず、日本の収容施設で過ごされました。収容所で、昭和20年の東京空襲の時、爆弾が自分の上に落ちるように、と祈ったということです。収容施設が目白の「聖母病院」とあり、どこかで聞いた名前だと思って地図で調べると、なんと南原繁先生の家(新宿区下落合)のすぐ裏でした。南原先生の近くは、北側と南側は、空襲を受けて焼失地域になっていますが、聖母病院を含む近所は帯状に残されています。おそらく、戦争中のアメリカ人収容所が聖母病院に置かれている事が米軍に知られており、その地帯を避けたからだと思います。東京大学も皇居も空襲を受けていませんから、避ける施設が決められていたのでしょうか。モーク先生たちのおかげで、南原家は空襲を逃れたわけで、不思議な神さまの導きです。

6月19日(日)午後3時から、本誌読者のお一人の薛恩峰先生の府中教会牧師就任式があり、参列しました。満員の会堂で、大村栄牧師より説教と就任の儀式が厳粛に行なわれ、式の後でとなりの幼稚園のホールで、茶話会がありました。中国人の演奏者費堅蓉さん(笑顔が素晴らしい方でした)の三弦琴の演奏や、大極新生会の方々の太極拳の模範演技もあり、大変楽しい会でした。

茶話会では、私が「薛恩峰先生を囲む会」を代表してスピーチをする機会をいただきましたが、昭和30年6月、南原先生が周恩来首相と会った時、周恩来首相が中国と日本とは2000年の交流の歴史があり、抗争のあったのは60年にすぎない、と言われたという話と、南原先生が中国との関係を大切にする事が日本外交の基本であると言うことを繰り返し述べられたことを紹介して、薛恩峰先生には日本と中国の架け橋になって頂きたいと申し上げましたが、みなさんから、良いスピーチであったとあとでほめられて、うれしく思いました。

南原繁先生の伝記は、東京大学名誉教授の三谷太一郎先生に見ていただきましたが、三谷先生は、明治時代に福沢諭吉、大正時代に吉野作造、昭和時代に南原繁と丸山真男が民主主義普及のための政治教育を行なった代表である、と述べられましたが、やはり福沢諭吉に匹敵する人なのだと思います。

梅雨の時期、どうぞ皆様もお身体ご自愛のほど祈り申し上げます。

平成23年6月26日

山口周三

エンカウターの読者各位